

第3回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 次第

日時：令和7年11月7日（金）午後1時～

場所：市役所西庁舎 12階 西12D会議室

1 開 会

2 議 題

(1) スポーツ医科学施設の主な機能について

資料1

(2) メディカル機能の望ましいあり方について

資料2

(3) スポーツ医科学施設の整備候補地について

資料3

(4) 持続可能な運営等について

資料4

3 その他

4 閉 会

(参考資料)

参考1 第2回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

参考2 市のスポーツ施設配置状況等について

参考3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

本日ご議論いただきたい点について

○スポーツ医科学施設の主な機能について

- ・健康増進や競技力向上等の取り組みの目的、対象、課題等に応じた適切な内容か
- ・中長期的な視点を踏まえた取り組みとなっているか

○メディカル機能の望ましいあり方について

- ・スポーツ医科学施設で提供するメディカル機能の範囲が適切か
- ・メディカル機能と関係する取り組みとのつながりやサポートのイメージが効果的、効率的な内容となっているか

○スポーツ医科学施設の整備候補地について

- ・整備候補地の要件と照らし合わせて、候補物件が有する特性や機能・環境面、ポテンシャル等を踏まえた説明が適切な内容となっているか

○持続可能な運営等について

- ・スポーツ医科学施設が必要な役割を継続的かつ効果的に果たせるよう、サポート人材や組織に着目した運営における要点、想定される取り組み等に足りない視点、考え方がないかどうか

基本方針

スポーツ医科学サポートにより、アスリートの競技力向上のほか、子どもから高齢者、障害者、健康増進のためにスポーツを取り入れようとしている市民が、安全・継続的にスポーツを実施することでスポーツ寿命、健康寿命の延伸につなげる

1 安心・健康で継続的・効果的なスポーツの実施

スポーツ傷害を予防し、安全かつ健康的なスポーツの実施につなげるため、個々の目的、健康状態等の状況に応じた支援を行います。

2 競技力の向上

アスリート、パラアスリートが持つ能力やパフォーマンスの向上を目指した支援を行うとともに、次世代を担うジュニアアスリートの育成支援を行います。

3 サポート人材の育成・確保

必要なスキルや知識を有した支援のための専門人材が必要不可欠であるため、人材育成、関係機関と連携した人材確保を図ります。

4 知見・データの活用・還元

スポーツ医科学支援により得られた知見やデータを活用し、大学等と連携した研究を行うなど、更なる効果的な支援の提供により市民に還元できる仕組みをつくります。

取組みの柱

スポーツ医科学施設の主な機能について(素案)

1 安全・健康で継続的・効果的なスポーツの実施

子どもから高齢者、障害者まで誰もがスポーツ傷害を予防しながら安全かつ健康的にスポーツを継続して楽しめるよう、スポーツ医科学の幅広い知見を活かした支援を行います。また、競技特性だけでなく、スポーツの目的、個々の健康状況、子どもの発育などに応じた効果的な支援を行います。

区 分	内 容	主な専門人材	諸 室
スポーツ版 人間ドック (仮称)	○メディカルチェック 尿、血液、胸部X線、呼吸機能、安静時心電図、運動負荷心電図、骨密度・骨量、食事調査、内科診察 等 ○フィジカル・フィットネスチェック 体組成(体脂肪率、筋肉量)、骨年齢 筋力、瞬発力、筋持久力、敏捷性、柔軟性、全身持久力 等 ○フィードバック 検査結果の所見 トレーニング・栄養等に関する助言・指導	内科医 臨床検査技師 放射線技師 スポーツ科学者 管理栄養士 等	診察室・待合室 検査室・更衣室 X線診療室・測定室
各種教室・ プログラム・ 相談等	○個々の身体の状態やスポーツの目的、競技種別や、 <u>スポーツ版人間ドック(仮称)の結果等を踏まえ、運動・トレーニング方法の提案や、栄養・心理等の指導・助言、女性を対象としたスポーツ相談、目的別教室等の実施</u> (ジュニア世代、高齢者、障害者が集まる場への出張教室等を含む)	アスレティック トレーナー 健康運動指導士 管理栄養士 等	トレーニング室 運動室(多目的 アリーナ)・更衣室
スポーツ施設 連携サポート	○市内のスポーツ施設等と連携し、測定結果を踏まえた効果的なトレーニング方法等の助言・指導により、日常的な運動・トレーニングの効果向上を図る	健康運動実践指導者 等	トレーニング室 運動室(多目的 アリーナ)・更衣室
広報啓発	○ <u>スポーツ医科学の効果や、対象に応じて取り組みやすいスポーツ・運動情報などの発信、動画コンテンツの提供など</u>	サポート内容による	動作分析室 等

※ 破線部は第2回有識者懇談会からの修正点

スポーツ医科学施設の主な機能について(素案)

2 競技力の向上

アスリート・パラアスリートが持っている能力を維持・向上させ、パフォーマンスを最大限に発揮できるよう、スポーツ医科学の専門的な知見を活かした支援を行います。また、次世代を担うジュニアアスリートの育成支援等を通じて、新たなアスリートが誕生する好循環をつくります。

区 分	内 容	主な専門人材	諸 室
アスリート体力測定	アスリート向け体力測定・フィードバック等を実施 (形態、身体組成、筋力、有酸素性能等) ※将来的にHPSCネットワーク連携機関を目指す	スポーツ科学者	測定室・更衣室
フィジカルトレーニングサポート	個人や競技の特性に応じたトレーニングメニューの提案	アスレティックトレーナー スポーツ科学者	運動室(多目的アリーナ)・更衣室 トレーニング室
メディカルチェック (スポーツ傷害予防)	ジュニアアスリート等の身体の各部位を確認し、競技によって頻発しやすいスポーツ傷害の予防や早期発見を図る	整形外科医 理学療法士 検査技師	診察室 検査室
チームサポート	チーム単位によるフィジカル、メディカル、栄養、心理等のサポートの提供(パッケージ化含む)	サポート内容による	サポート内容による
動作分析・映像サポート	映像等による動作分析により、競技特性に応じた動作の最適化 等	スポーツ科学者	動作分析室

※ 破線部は第2回有識者懇談会からの修正点

対象や希望に応じて複数のサポートをパッケージ化して提供

スポーツ医科学施設の主な機能について(素案)

3 サポート人材の育成・確保

スポーツ医科学による各種支援には、必要なスキルや知識を有した専門人材が必要不可欠であることから、人材育成に資する取り組みを進めるとともに、関係機関等と連携しサポート人材の安定的な確保を図ります。

区 分	内 容	主な専門人材	諸 室
指導者研修会・相談会・交流会	発育段階にあるジュニア世代を指導する指導者等を対象に、トレーニング方法、指導方法、栄養、心理、休養、熱中症対策等の研修会・相談会・交流会等を実施(オンライン形式含む)	アスレティック トレーナー 健康運動指導士 管理栄養士 臨床心理士 等	ホール 研修室 トレーニング室 運動室(多目的アリーナ)
サポート人材講習会・交流会	スポーツ医科学に関係するサポート人材の講習会・交流会を実施し、知見の深化や連携の強化を図る	医師 理学療法士 アスレティック トレーナー 管理栄養士 臨床心理士 等	ホール 会議室
学生等への実践の場の提供	測定や指導などの各種サポートの場面で、スポーツ医科学の専門人材を目指す学生等の研修やインターンを受け入れ、人材の育成を図る	医師 理学療法士 アスレティック トレーナー 管理栄養士 臨床心理士 等	各サポートで必要な諸室 会議室
施設貸出 等	運動・スポーツを行うコミュニティの拡大や活動の活発化に向けて、貸室等を実施	—	会議室

※ 破線部は第2回有識者懇談会からの修正点

スポーツ医科学施設の主な機能について(素案)

4 知見・データの活用・還元

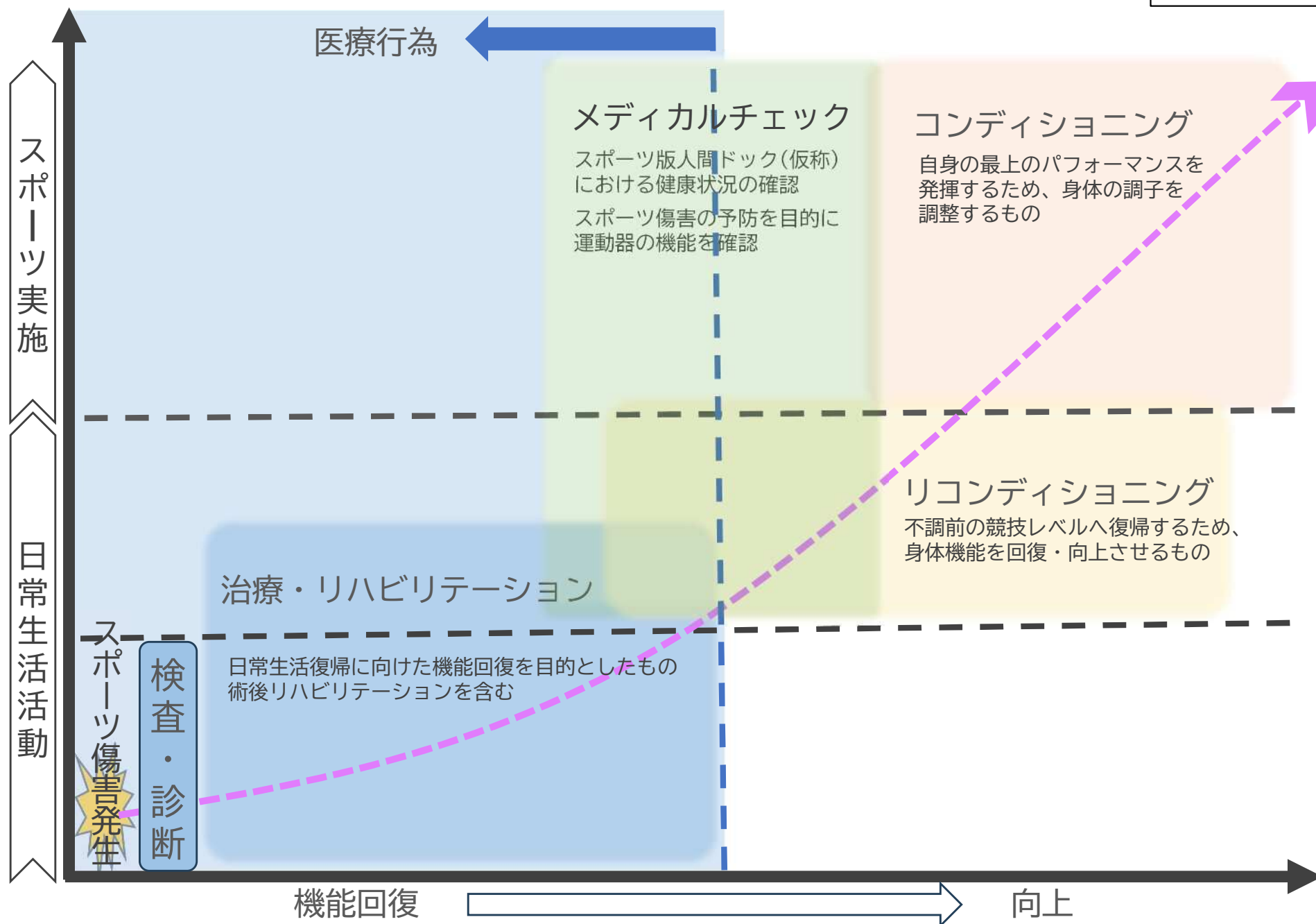
各種支援等を通じてスポーツ医科学に関する知見やデータの蓄積が期待できるため、大学等と連携し研究に有効活用するとともに、更なる効果的な支援の提供を行うことで市民に還元できる仕組みをつくります。

区 分	内 容	諸 室
スポーツ医科学研究の促進	○スポーツ医科学支援で得られた知見やデータを活用し、大学等と連携して、健康増進、パフォーマンス向上に資する研究を行うほか、成果を発信し、<u>成果に基づいた地域スポーツの指導者育成を始めとした新たな支援への還元</u> ○大学等の研究者間の情報交換、交流機会の創出	ホール 会議室 事務室
情報の収集及び発信	○HPSCなどの最新の知見の収集や、他都市のスポーツ医科学センターとの交流・知見の共有などによる情報収集 ○ウェブサイト、SNS、動画、パンフレット、チラシ等を通じて、スポーツ医科学を活用した知識・情報を広く発信・啓発	施設内の諸室
産官学連携等による取り組みの普及	パフォーマンス向上や健康増進をテーマとし、企業や大学との連携等により、スポーツ医科学を活用した取り組みの普及を図る	ホール 会議室

※ 破線部は第2回有識者懇談会からの修正点

メディカル・コンディショニング機能について(イメージ図)

資料 2-1



※診断結果・治療内容によっては他の医療機関と連携

メディカル機能の望ましいあり方について(素案)

メディカル機能の範囲

スポーツ版人間ドック(仮称)

メディカルチェック

血液、尿、胸部X線、呼吸機能、安静時心電図、運動負荷心電図、骨密度・骨量、食事調査、内科診察 等

フィジカル・フィットネスチェック

- 形態・体組成検査
体組成（体脂肪率・筋肉量）、骨年齢 等
- 体力測定
筋力、瞬発力、筋持久力、敏捷性、柔軟性、全身持久力 等

フィードバック

- 検査結果の所見
医師、栄養士、スポーツ科学者等による検査所見
- 助言・指導等
トレーニング指導・栄養指導 等

※上記の標準コースの他、項目を絞り短時間で気軽に受けられる簡易コースの設定を予定

治療希望等に
応じて案内

スポーツ診療

他都市の診療機能を参考にしつつ、本市における機能を検討

- 主な専門人材 医師・看護師、理学療法士、放射線技師 等
- 諸室 診察室、待合室、検査室、更衣室、X線診療室 等

スポーツ版人間ドック(仮称)等でスポーツ障害等が疑われる方に対して診断・治療を実施
回復後は各種教室や運動プログラムを案内するなど、継続的なスポーツの実施を目指す

※診断結果・治療内容によっては他の医療機関と連携

※上記の機能案については、今後の調整等による

定期的な利用の勧奨

- ・メディカルチェックや体力測定等のアセスメント(評価)と各種サポートの循環
- ・得られた知見・データを活かした研究の推進と新たなサポート等による還元

各種サポート

- 各種教室、運動プログラム
アスレティックトレーナー、理学療法士、健康運動指導士、トップアスリート・元トップアスリート等による指導・助言
例)筋力向上プログラム
コンディショニングプログラム
膝・腰痛向け運動教室
歩き方・走り方改善教室
働き世代向けオンライン教室
女性を対象としたスポーツ相談
- 心理・栄養サポート
例)メンタルトレーナー、スポーツ栄養士等による指導・助言
相談、講演会、研修会等の開催
- アスリートサポート
競技力向上に特化したサポート(パラアスリート含む)
例)詳細な体力測定、トレーニング指導、動作解析、女性アスリートサポート
- 周辺スポーツ施設を活用したサポート
例)市内スポーツセンターのトレーニング室、プールにおいて健康運動実践指導者、スポーツプログラマー等による指導・助言
など

目的に
合わせ案内

スポーツ医科学施設の整備候補地について(素案)

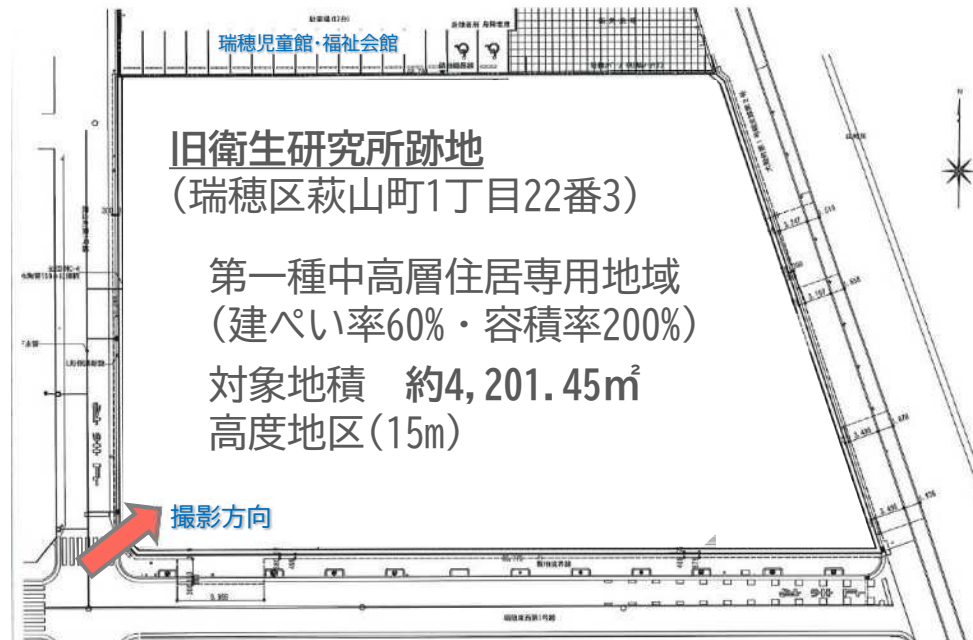
本市で活用可能な市有地のうち、これまでの機能等の検討を踏まえ、望ましい要件に合致した物件は以下のとおり。

要 件	説 明
① 拠点機能を発揮するための十分な敷地面積がある	旧衛生研究所跡地(瑞穂区萩山町1丁目22番3) 対象地積約4,200㎡(建ぺい率60%・容積率200%) 利用可能床面積 約8,400㎡(詳細は配置計画等による) ※参考(他都市施設における延べ床面積) ・横浜市スポーツ医科学センター 約12,300㎡ ・新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター 約6,457㎡
② 公共交通機関のアクセスを活かすことができる	地下鉄 桜通線 瑞穂区役所駅 徒歩13分 地下鉄 桜通線 瑞穂運動場西駅 徒歩19分 地下鉄 名城線 瑞穂運動場東駅 徒歩17分 市バス 汐路町四丁目 徒歩5分 / 市バス 瑞穂保健センター 徒歩5分
③ 周辺スポーツ施設との連携・活用を見込むことができる	パロマ瑞穂スポーツパーク 陸上競技場(本・北)、アリーナ、テニスコート、野球場、ラグビー場、アーチェリー場、弓道場、相撲場、プール、トレーニング室、レクリエーション広場、宿泊棟、8の字ループ(安全快適にランニング・ウォーキングのできる新設コース) など ※参考 パロマ瑞穂スタジアムまで徒歩10分 (取り組み例) ・8の字ループや陸上競技場を使用し、計測や講習会と合わせたフォーム指導 ・各競技場での指導者向けのトレーニングやコンディショニングなどの講義と実践指導 ・宿泊施設と連携し、詳細なメディカルチェック・体力測定、栄養・心理等の講義、各競技場での指導・トレーニングを組み合わせた宿泊型サポートの提供
④ サポート人材・機関との円滑な連携・調整が期待できる	近郊にスポーツ医科学の取り組み・研究を既に進めている名古屋市立大学があり、医療面や研究環境の相互協力などの連携が期待できる ※半径2km以内に市立大学病院、桜山キャンパス、田辺通キャンパス、滝子キャンパスあり

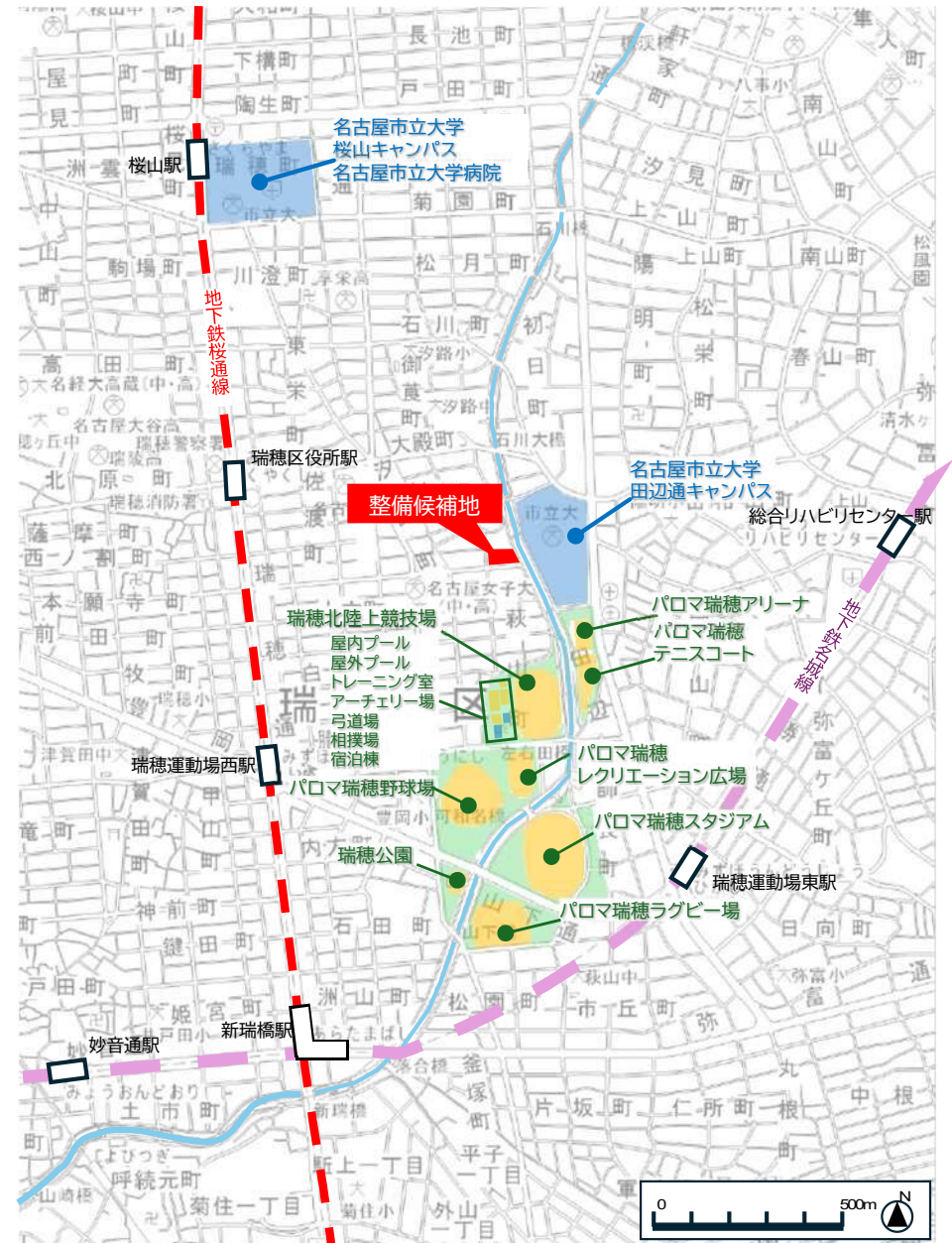
※要件は第2回有識者懇談会資料より

スポーツ医科学施設の整備候補地について(素案)

資料3-2



現地写真



持続可能な運営等について

資料4

区 分	主な視点	想定される取り組み
専門人材の活用、 関係機関との連携	・スポーツ医科学施設に求められる人材の質(必要な資格) ・関係機関との連携関係(大学等の教育・研究機関、国、他都市スポーツ医科学センター等)	・専門人材に必要な資格は、パラスポーツ指導員含め他都市センターを参考としながら、マルチスキル人材の活用による効果的・効率的な人員配置 ・他都市のスポーツ医科学センターとのノウハウ共有、スキル取得のための研修、大会等へのサポート人材の派遣 ・共同研究や相互協力に係る大学等との連携 ・ハイパフォーマンススポーツセンターネットワーク連携機関の指定(トップアスリートサポートのノウハウの活用)
円滑な組織運営	・マネジメント、チームによる医科学サポート	・横断的な課題解決やリスク管理、組織目標に基づいた運営等を行うための組織体制の構築(例:総括マネージャーの配置など)
運営の継続性	・支援の質の維持・向上、知見・ノウハウの蓄積 ・安定したサービスの提供	・他都市スポーツ医科学センターとのノウハウ共有、スキル取得のための研修等の連携(再掲) ・高い専門性を活かした医科学サポートを安定的かつ継続的に提供するため、着実なノウハウの蓄積、計画的な人材育成を図るための運営方式の採用
取り組み内容の あり方	・支援方針・施策の方向性に基づく取り組み内容のあり方	・支援方針や施策の方向性、最新の医科学サポートの動向などを踏まえた現状の取り組みに対する専門的なチェックを行い、取り組み内容のあり方を確認する仕組みの導入
情報の取り扱い	・個人情報保護、研究への活用等	・利用者の測定データ等の厳格な取扱いに関する仕組みの導入 ・研究データとして活用するための必要な手続き

※施設・設備に関する事項は除く